

教科名	芸術	科目名	音楽 I	対象学年	1 学年	履 修	選択必修
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。 ・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞くことができるようにする。 ・主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)		
1 学期	7	歌唱	・伸び伸び発声をし、作曲者、作詞者の思いを感じ取る。 ・イタリア語の歌詞の発音及び歌曲の発声方法を学ぶ。		
	7	合唱	・2部合唱または3部合唱をし、ハーモニーの美しさを感じ取る。 ・パート練習を通して、仲間と主体的に活動に取り組む。		
	6	鑑賞	・鑑賞の能力を養う。		
2 学期	7	器楽演奏(ギター)	・基本的な奏法を学び、短音でメロディーを演奏する。 ・コードを学び、ギターで伴奏し歌う。		
	7	鑑賞	・様々なジャンルの音楽を鑑賞し、聞く耳を養う。		
	7	アンサンブル	・これまでの器楽奏法を生かし、グループで選曲、アレンジを演奏する。		
3 学期	11	器楽奏法	・邦楽、洋楽の楽器、民族楽器の奏法を学ぶ。		
	11	鑑賞	・様々なジャンルの音楽を鑑賞し、聞く耳を養う。		
教科書/ 副教材	教科書「MOUSA I」(教育芸術者) 副教材「自作プリント」				
関連科目					
評価の 観 点	知識・技術	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけたか。			
	思考・判断・表現	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞くことができたか。			
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度が養えたか。			
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	座学(学習観察, 発言, 話し合い等)			○	○
	演奏発表		○	○	
	鑑賞プリント		○	○	
	レポート・ノート・課題等			○	
	自己評価				○
評価割合 (%)		50	30	20	
留意事項	五線紙ノートの提出を課す。				
備考					

教科名	芸術	科目名	美術 I	対象学年	1 学年	履 修	選択必修
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)
1学期	9	表現・鑑賞絵画 「想像を形に」 想像の世界を表そう	考え、構想を練ったり鑑賞したりする想像や空想したイメージなどを基に、形体や色彩、配置、組み合わせなどの効果をとともに、具体物や抽象的なものの組み合わせ、構図や色彩などの効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして、空想や夢などから、心の中の世界を表す。
	1	鑑賞 デザイン 「デザインの世界」 デザインの広がりを考える	「飾る」「伝える」「使う」「環境」などの幅広いデザインの世界の役割を理解し、デザインとは何か、デザインをするときに大切なことは何かを考える。
	11	表現・鑑賞デザイン ポスターで伝える 「メッセージを伝えるポスターをつくろう」	伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝えたいイメージなどを捉え、当該問題に対する注意喚起を目的としたポスターを構想する。
2学期	10	鑑賞 絵画 「日本美術」 日本の美術のよさや特質を味わおう	屏風や掛軸、絵巻などのよさや美しさ、日本の美術の表現の特質、美術文化の継承と創造について考え、日本の美術の独自の美意識や自然観、制作の知恵などを理解し、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式などを捉え、鑑賞する。
	6	表現・鑑賞映像メディア表現 「写真で表す」 学校生活を表す情景を撮ろう	被写体の印象や瞬間の美しさなどを基に、構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、写す角度や配置、拡大や縮小、光や影、時間の静止などの効果、全体のイメージなどを捉え、カメラの特性を生かして、学校生活で心に残る情景を思いが伝わるように表す。
	12	表現・鑑賞彫刻 「抽象彫刻で表す」 動きを感じる抽象彫刻をつくろう	自然物や人工物などからイメージしたり、楽しい、悲しいなどの感情から形を考えたりしながら、主題を生成し、造形的なよさや美しさを考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりするとともに、重心やバランス、動きなどを生かして、全体のイメージなどを捉え、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、存在感や美しさなどが感じられる抽象彫刻に表す。
	9	表現・鑑賞 デザイン 「パッケージのデザイン」 卵やカップのパッケージをデザインしよう 【信州学】	目的や条件、美しさや使いやすさ、入れるもののイメージなどを基に、形や色彩などの効果などを考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、包むものの形やイメージ、用いる場面などに着目し、包むものの形状や強度、パッケージの目的を考え、全体のイメージなどを捉え、材料の特性を生かして、美しく機能的なパッケージをデザインする。

3学期	1	鑑賞 映像メディア表現 「映像に包まれて」 人を包み込む映像表現のよさを鑑賞しよう	映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、機器の特質を生かした創造的な工夫について考えるとともに、光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージなどを捉え、機器の特性を生かした投影の工夫に着目し、人を包み込む映像表現のよさや美しさなどを理解する。		
	10	表現・鑑賞 映像メディア表現 「映像で伝えるメッセージ」 映像で学校の紹介をしよう	目的や条件を基に、画面の構成と時間の流れや物語性、言葉や音などの映像表現の伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、画面の構成や時間の効果などに着目して、映像メディア機器の特性を生かして表す。		
	1	鑑賞 オリエンテーション 「これからの私と美術」	生活と美術の関わりに目を向け、これからの生活の中で、美術を通して学んだことをどのように生かすことができるのか考えるとともに、「これからの美術と私」について1年間の学びとともに振り返る。		
教科書/ 副教材	「高校生の美術1」(日本文教出版)				
関連科目					
評価の 観 点	知識・技術	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができたか。			
	思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができたか。			
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができたか。			
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学習観察、発言、話し合い等			○	○
	表現方法・創意工夫		○	○	
	ノート・課題等		○	○	○
	自己評価				○
	評価割合(%)		35	35	30
留意事項	学習項目はその年の事情や授業進度に応じて適宜変更することもある。また定期考査を行わないため、普段の授業が重要になってくる。欠課があっても課題はすべて提出しなければ単位は認めない。				
備 考					

教科名	芸術	科目名	総合音楽	対象学年	3学年	履修	選択
対象学科	全学科	コース		単位数	2単位	時数	70
目標 (生徒につけたい力等)	<p>個性豊かな表現力および生涯にわたって音楽を愛好する心情と音楽によって生活や社会を明るく豊かにしていく態度を養う。</p> <p>また、卒業後それぞれが進んだ分野において、自分を生かす術、コミュニケーション力の一つとして音楽を学ぶ。</p>						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)		
1 学期	8	歌唱	日本歌曲や外国の歌曲を通して、発声方法と発音、また作曲家作詞者の思いを感じ取って表現する。		
	8	合唱	2 部合唱または 3 部合唱をし、ハーモニーの美しさを感じ取る。 パート練習を通して、仲間と主体的に活動に取り組む。		
	5	鑑賞	ミュージカル映画や歌唱に関連した鑑賞をする。		
2 学期	14	器楽①	鍵盤楽器を使い、幼児保育の教材を中心にメロディと伴奏を弾けるようにする。移調にも挑戦し、楽典の理解も深めていく。		
	11	器楽②	コード奏をできるようにする。コードを理解し、自分で選択した楽曲をコードで伴奏付けを行うか、弾き歌いをできるように学習する。		
	8	作曲	音楽の仕組みを理解し、様々な作曲技法を学ぶ。 メロディを作曲する、BGM を考える、デジタル機器を使用し作曲を試みる、など自分で選択した方法で創作を試みる。		
3 学期	10	アンサンブル	ギターアンサンブルやハンドベル、カップスなどクラス全員またはグループごとにアンサンブルを行う。		
	6	鑑賞	視野を広げられるような様々なジャンルの音楽を鑑賞する。		
教科書/ 副教材	副教材「自作プリント」				
関連科目					
評価の 観 点	知識・技術	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけたか。			
	思考・判断・表現	・自己のイメージをもち、知識を応用させ音楽表現を創意工夫することができたか。また音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞き、自分の言葉で表現することができた、また表現しようとしているか。			
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協調的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度が養えたか。			
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	座学(学習観察, 発言, 話し合い等)			○	○
	実技試験		○	○	
	レポート・プリント・課題等		○	○	○
	自己評価				○
	評価割合 (%)		30	40	30
留意事項	筆記試験は行いません。代わりにそれぞれの実技試験と授業で扱ったプリント類の提出が大切になります。また試験の内容よりも授業への意欲態度を重視します。 年間を通して、音楽の基本的な知識(読譜やリズム)についての学習を行います。				
備考					

教科名	芸術	科目名	美術Ⅱ	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	全学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけ たい力等)	美術Ⅰをより発展させ、多くの素材を使い、多様な表現方法をもって美術体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てる。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目(何を学ぶのか)	学 習 内 容(どのように学ぶのか)		
1学期	2	鑑賞表現 (絵画・彫刻)	祈りの場を彩る		
	12	表現 (絵画・彫刻)	心の中の風景		
	12	表現 (映像メディア表現)	ミュージックビデオをつくる ※文化祭のテーマ曲でビデオを制作するなど、学校行事と関連させてもよい。		
2学期	4	表現 (映像メディア表現)	風景を撮影する ※文化祭など学校行事の様子を撮影する。		
	12	表現 (デザイン)	トータルデザインを考える ※統一感を意識して文化祭のチラシやポスター、グッズを制作するなど、学校行事と関連させてもよい。		
	1	鑑賞 (絵画・彫刻)	抽象への誘い		
	15	表現 (絵画・彫刻)	人の形を追求する		
3学期	11	表現 (デザイン)	住まいをデザインする		
	1	鑑賞	人を、社会を変えていく／ 作家の手法 オラファー・エリアソン		
教科書/ 副教材	教科書「美術2」(光村図書)				
関連科目	「 」				
評価の 観 点	知識・技術	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。			
	思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。			
	主体的に学習に取り組む態度	・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。			
評価の 観 点 ・ 方 法	評価方法		知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学習観察、発言、話し合い等			○	○
	表現方法・創意工夫		○	○	
	ノート・課題等		○	○	○
	自己評価				○
	その他()				
	評価割合(%)		35	35	30
学習項目はその年の事情や授業進度に応じて適宜変更することもある。また定期考査を行わないため、普段の授業が重要になってくる。欠課があっても課題はすべて提出しなければ単位は認めない。					
留意事項					
備考					